仙台市災害ボランティア応援紙＜　第 14 号　2012 年 1 月 11 日　＞

最終号

復興ニッポン cha･cha･cha！

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする＜支え合い、助け合い、協働＞のための情報紙です。「みんなは、どんな活動しているの？」今すぐ知りたい、アイデアや取り組み。災害ボランティア最前線からお届けします。（※cha は「care」「help」「act」の頭文字）

発行：仙台市ボランティアセンター（復興支援”EGAO（笑顔）せんだい”サポートステーション）

◆全 号 表 紙 大 集 合◆

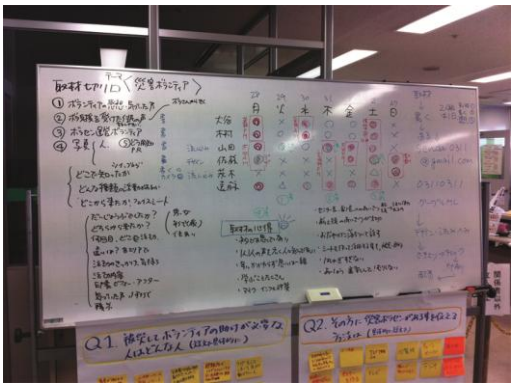
最終号を迎えるにあたり、今までこの表紙を飾ってくれた様々な写真や言葉たちを改めて紹介します。写真撮影や取材に応じて下さった皆さんに御礼申し上げます。バックナンバーが読みたい方は、仙台市社会福祉協議会・仙台市ボランティアセンターまでお出かけくださいね！！

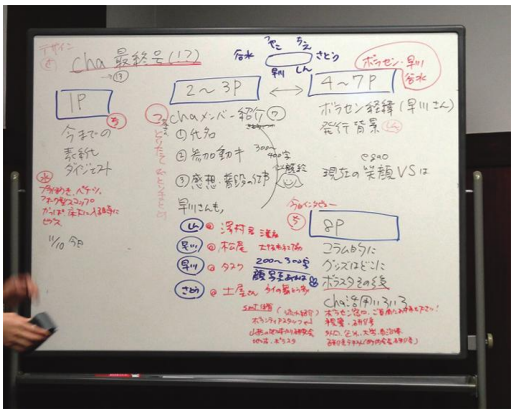
cha!cha!cha! 発行の背景・経過

「復興ニッポンｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！」は、災害ボランティアを応援する情報紙として、創刊準備号（３月２５日）を経て、４月２日に発行されました。当時は必要な情報が必要な方に伝わりにくい現実が目の前にあり、ボランティア情報も同じ状況にありました。３月１５日に宮城野区災害ボランティアセンター、翌日には若林区災害ボランティアセンターを開設しましたが、地元の若いボランティアの皆さんが徒歩や自転車での参加が増えていく時期でもありました。

このような中、ボランティアの力を貸して欲しい、明日も来て欲しい、皆で力を合わせて欲しいという願いを込め、応援メッセージを乗せて「復興ニッポンｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！」は動き出しました。

この情報紙は、被災地の復興のために汗を流し、知恵を出し合っている最前線の情報をボランティア同士が共有するためのものですが、発行するためのスタッフ、ノウハウが不足していました。そこでＮＰＯなどに“ＳＯＳ”を発信。すぐに企画、取材、編集、デザインを本業とする“助っ人“が集まり、「広報ボランティアチーム」が生まれました。各メンバーは現地取材を重ね、時にはボランティアを体験しながら、Ｅメールによるデータ作り、デザイン、校正を分担しながら、まさに走りながらの挑戦でした。





災害ボランティア応援かわら版　＜　準備号３/２５　＞

復興せんだい cha cha cha!

被災地の復興のために汗を流し、知恵を出している災害ボランティアの頑張りをお伝えする
助け合い、支え合いのための情報紙です。cha= care,help,act　発行：仙台市災害ボランティアセンター

被災現場で活動した災害ボランティアスタッフの声をお届けします。

●「一人暮らしの高齢者のお宅を片づけました」

人の役に立てたらな、という思いでボランティアセンターを訪れました。活動内容は、一人暮らしのお年寄りの家の片づけや掃除などをお手伝いしました。２日間続けて活動中です。おばあちゃんは涙を流してお礼を言ってくださり、さらにやる気になったところです。ボランティア活動をして、気分がすっきりしました。１週間くらい活動できればと思っています。

＜２０歳代、団体職員、若林区災害ボラセン＞

３月２５日発行の準備号は、『復興せんだいｃｈａ　ｃｈａ　ｃｈａ！』の名称で発行されました。

４月２日発行の創刊号から『復興ニッポンｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！』の名称になり、今回の１４号１月１１日が最終号となりました。

cha!cha!cha! 企業との関わり

私達タスク株式会社は震災後、“復興支援団体たすく”として、仙台市社会福祉協議会様の協力のもと、仙台市内の災害ボランティアセンターを中心に復興支援に携わらせて頂きました。

本来、私達はコンサートやイベントに携わる職種だった為、仙台はもちろん、東北地方でのコンサートもすべて中止・延期になり、まったく仕事のない状況が続きました。

街の様子を見ると、今となれば随分前の事に感じてしまいますが、当時は私達スタッフも先の見えない不安の中、私達だからできる事を微力ながら模索し、がむしゃらに日々を過ごしていたような気がします。

現在は多くのホールが使えるようになり、コンサート自体も元通り行われていて、当時ボランティアとして活動していたスタッフが、今では一緒に仕事をできているのは素晴らしい事ではないかと思います。

まだまだ大変な方々もたくさんいらっしゃると思います。今後も東北で生活する皆さんの事をタスク一同応援していきます！

タスク株式会社　　渡部　翔太

---

cha!cha!cha! ボラセンスタッフその後

松尾　浩樹さん

大阪市社会福祉協議会の松尾浩樹です。仙台市災害ボラセンでは、３月１７日～２４日まで、主に宮城県災害ボラセンとの調整などを支援させていただきました。一度大阪に戻った後は、大阪のＮＰＯや大学等の現地活動を支援しつつ、仲間と一緒にボラバスの運行（９月までに計１２回、石巻・気仙沼・陸前高田等）や県外避難者の方々の生活支援等を行っています。９月には関西も台風水害に見舞われ、被害の大きかった和歌山県内の社協支援にも当たりました。震災の爪跡はとてつもなく深いものですが、一方で新たな人と人とのつながり、共感・連帯の輪が広がったのも事実です。大阪ー仙台、物理的な距離を超えて、これからも共にありたい、共に歩みたいと思っています。

澤村　隆太さん

災害ボランティアコーディネーター養成講座を大学１年の頃から受講し、災害ボラセンの立ち上げから参加。１か月後には有給スタッフとして、災害ボラセン情報センターで学生ボランティアのリーダーになりました。宮城野区災害ボラセンが縁で、三菱商事に就職。現在は会社の CSR 推進部の一員として、社会貢献活動を行う社員のお世話係として県内を飛び回っています。

cha!cha!cha! 編集メンバー紹介

本号が最終号になりましたので、編集メンバーを紹介します。プロのライターから初心者のライターまでさまざまな経験を持つ市民が集まりました。もちろん全員ボランティアスタッフです。
①氏名、②参加動機、③感想、④普段の仕事など。

①**遠藤　智栄**（えんどう　ちえ）
②震災直後、災害ボランティアセンターを知ってもらうことがなかなか難しい、また、どんな活動を災害ボランティアが実践しているかを伝えたいのだが・・というボラセンのスタッフの声を伺い、アクションを決めました。
③震災直後は、情報発信している媒体がほとんどなく災害ボランティアセンターやボランティアの皆さんの活動を伝える貴重な役割を果たしたのではないかと思います。混乱する中、有志で集まってくださったｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！スタッフにはとっても感謝しています。ｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！スタッフが取材で、そして、身近な災害ボランティアで気づいた点には、いつもハッとさせれらることばかり。災害ボランティアセンタースタッフにも感謝！です。
④普段は、地域づくりや地域活性化、人材育成の仕事をしています。復興もまさに地域づくり。応援し続けます！！

①**大谷　美紀**（おおたに　みき）
②かつて取材で歩いた東北の海辺の方々に恩返しをと思いつつ方法を見出せないでいたところ、取材ボランティアのお声がけをいただき、「恩送り」と考えて参加しました。
③ボランティアの方々、そしてｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！編集メンバーの多くも、被災し、仕事が止まった状況にありました。個人的には、ｃｈａ・ｃｈａ・ｃｈａ！で側面支援するはずが、やりとりを通して元気づけられた気がします。町内会、ＮＰＯ、ＪＣ、企業など、さまざまな場面に行動力のある方がいて、地域の動きや社会の流れを実感できたのは意外でした。何事も表裏あるものですが、善とされることの陰にそうとは言えないこと、問題とされる陰にそうせざるを得ない状況など、知ることができたのも貴重な経験になりました。
④ライターです。最近、新聞紙上などで、沿岸で被災した企業の声を紹介する機会がありました。「思い」や「空気感」を伝えていきたいと、さらに強く感じています。

①**木村　津谷子**（きむら　つやこ）
②震災後数ヶ月、私は「心ここにあらず」でした。沿岸部で生まれ育ち、数年前まで住んでいた私は津波被害の甚大さに呆然としていました。何も出来ずに、テレビから流れる映像を見てはため息をつく日々。そんな時、友人から誘われたのがボランティアの説明会でした。しかし、広報のボランティア？よく分からないまま集まった皆さんの雰囲気が良いのに惹かれて参加することになったのです。
③まだ市内の地理に疎く、インタビューして書くという経験のない私は終始現場に同行するだけの参加でしたが、多くの方々の様々なボランティアを拝見しボランティアのとらえ方が広がりました。多くを学ばせていただき感謝です。
④今はもっぱら自分を調整中の日々です。

①**佐藤　奈於子**（さとう　なおこ）
②ボランティア仲間から声を掛けて貰ったのがきっかけです。何かしたいけれど何をしたらいいのか分からなかった時だったので、「チャンス！」と思い、思い切って参加することにしました。
③実際に現場に行って瓦礫の撤去作業だけがボランティアではないのだと実感しました。時期を経て必要となってくるボランティアの内容は変わっていくので、順次対応していく臨機応変さが地元住民である私たちには不可欠なのだと思います。
④フリーでＷＥＢデザイナーの仕事をしています。ＨＰを作ったりブログのカスタマイズ等をしています。

①**山田　裕美**（やまだ　ひろみ）
②ちょうど震災後１週間で働いていた会社を解雇となり、時間があって何かをしたいと思っていたところ、知り合いから声をかけられたのがきっかけです。
③文章を書いたり編集したりするのは、得意という程ではないですが好きな分野でした。しかし、人に取材するというのは初めてだったので正直、戸惑いながらの活動だったと思います。それでも一緒に活動した皆さんの協力や、社会福祉協議会のバックアップにより、貴重な体験をさせて頂き感謝しております。
いろんな場所へ自転車で通ったことも良い思い出ですね。
④震災後は事務職に戻りました。毎日、時間に追われるくらい忙しい職場でストレスも多いですが、働ける環境があるだけ有難いと思っています。近い将来、アロマセラピストとしての活動を優先させ、自分のペースで仕事ができれば良いなと思います。

①**佐々木　伸**（ささき　しん）
②災害ボランティアの皆様の活動動機、活動内容、活動成果、被災者が困り事などを、お互いに共有できる情報手段が必要と感じ、行動しました。また、「いま」を伝える資料としても必要であると思いました。
③広報班のチームワーク、現地の災害ボラセンの協力もあり、タイムリーな情報をいち早く伝えることができました。専門家の仕事振りはとても参考になりました。
④当時は仙台市社会福祉協議会で災害ボラセンの全体運営・調整を行っていました。現在は仙台市青葉区でまちづくりを担当しています。

①**早川　敏**（はやかわ　さとし）
②仙台市ボランティアセンター（以下、ＶＣ）の早川と申します。災害ＶＣ関係につきましては、市災害ＶＣ副センター長という肩書で、現地センターの設置や備品・通信手段の確保など、開設・運営に必要な調整を行っておりました。今まで、新潟など被災地の現場スタッフとして活動した経験は何度かあるのですが、今回のように災害VC 運営の全体調整は初めてで、何が起こるのかわからず不安でいっぱいでした。これからも、被災者の方々への支援は様々な形で必要となると思います。自分もいろんな方々の声に耳を傾け、必要とされる支援を考え、提供できるように取り組んでいきたいと思います。
③とにかく手一杯で、情報提供まで手が回らない状況の中でお手伝いいただいて本当に助かりました。支え合いや助け合いを心から実感しました。
④仙台市社会福祉協議会・仙台市ボランティアセンター、復興支援“ＥＧＡＯ（笑顔）せんだい”サポートステーションです。

仙台市災害ボランティアセンターの状況

被害の情報、支援ニーズが集まらない状況で災害ボラセンはスタートしました。まずはこれまでの設置運営訓練をベースに、現場の状況に合わせた態勢を作り上げられました。

関西地区、中国地区を中心とする社会福祉協議会のボランティアコーディネーターの応援、多くの企業からの職員派遣、災害ボラセン運営のためのボランティアスタッフの支援など、徐々に支援力が高まっていきました。時間の経過により状況が変化している中で、「いまへの対応」とともに、「１週間後、２週間後への準備」がポイントでした。

（１）災害ボランティアセンター設置状況

①第１段階（市・区災害ボランティアセンター）

センター名	設置場所	開所日	閉所日	開所日数
仙台市災害ボランティアセンター（統括情報センター）	仙台市福祉プラザ　4 階	3/15	8/10	149 日
宮城野区災害ボランティアセンター	宮城野体育館　障害者アリーナ	3/15	4/26	43 日
若林区災害ボランティアセンター	若林区中央市民センター別棟 2･3 階	3/16	4/26	42 日
太白区災害ボランティアセンター	仙台市体育館　第 2 競技場	3/19	4/24	37 日
青葉区災害ボランティアセンター	青葉体育館　2 階ロビー等	3/20	4/24	36 日
泉区災害ボランティアセンター	七北田体育館	3/26	4/24	30 日

※仙台市災害ボランティアセンターは各現地センターの設置や運営統括、行政等との調整、情報の受発信などを中心に運営。
※4/26 までは各区ごとに震災被害全体の支援を実施。

②第２段階（津波被害支援）

センター名	設置場所	開所日	閉所日	開所日数
仙台市災害ボランティアセンター（統括情報センター）	仙台市福祉プラザ　4 階	3/15	8/10	149 日
南部津波災害ボランティアセンター	プレハブ設置（荒井地区）	4/27	5/31	35 日
北部津波災害ボランティアセンター	宮城野区体育館　障害者アリーナ	4/27	5/31	35 日

※4/27 より地震被害の支援要請減少に伴い、津波被害を中心に支援する南部・北部津波災害ボランティアセンターを設置。

③第３段階（津波被害支援統合）

センター名	設置場所	開所日	閉所日	開所日数
仙台市災害ボランティアセンター（統括情報センター）	仙台市福祉プラザ　4 階	3/15	8/10	149 日
仙台市津波災害ボランティアセンター	宮城野区体育館　障害者アリーナ	6/1	8/10	71 日

※6/1 より支援要請数減少により、効果的・効率的な支援を行うため、2 か所の津波災害ボランティアセンターを仙台市津波災害ボランティアセンターとして１か所に統合。
※6 月中旬から約 1 カ月間をかけて、津波被災地域の個別訪問ニーズ調査を実施し、災害ボランティアセンターの再周知とニーズ掘り起こし、課題把握を実施。

④第４段階（復興支援）

センター名	設置場所	開所日	閉所日	開所日数
復興支援“EGAO（笑顔）せんだい” サポートステーション	仙台市福祉プラザ　４階 仙台市ボランティアセンター内に設置	8/11	継続中	継続中

※8/11 より従前の震災被害に加え、仮設住宅等を含めたボランティアによる総合復興支援を実施。

（２）災害ボランティアセンター受付・活動状況等　　（単位：件、人）

	ボランティア受付数		要請件数		活動数		活動延べ人数	
	計	１日平均	計	１日平均	計	１日平均	計	１日平均
第１段階 (3/15～4/26)	26,914 (8,264)	625.9 (192.2)	5,322	123.8	6,360	147.9	26,721	621.4
第２段階 (4/27～5/31)	12,556 (4,568)	358.7 (130.5)	1,091	31.2	1,532	43.8	11,514	329.0
第３段階 (6/1～8/10)	16,593 (6,512)	233.7 (106.8)	526	7.4	1,622	22.8	16,569	233.4
合計 (3/15～8/10)	56,063 (19,344)	376.3 (129.8)	6,939	46.6	9,514	63.9	54,804	367.8

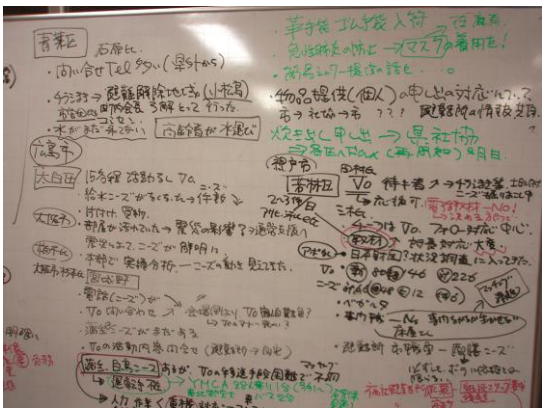
※（　）内は新規登録者数

第４段階 （8/11～ 継続中）	登録 804 件（個人および団体／事前登録制のボランティア活動に転換。12/15 現在） 〔ボランティア紹介／各種相談受付／情報提供／広報・啓発／各種報告集計等〕

ボランティア情報センター

仙台市災害ボラセン

全国からの助っ人ミーティング



ホワイトボード

cha!cha!cha! 災害ボランティアセンター備品やグッズは今どこに！？

泥出しや片付けなどで必需品だった様々な備品やグッズたち。仙台市災害ボランティアセンターで活躍した後は、どのような運命をたどったのでしょうか？今回は、災害ボラセンスタッフに取材して、その行方を探りました。

●胴長・長靴

沿岸部のボランティア活動中に消耗したため廃棄処分になりました。実は、ボラセン開設中も補修しながら使っていたんですって！！

●軍手や皮手袋

回収した物は、宮城県内の被災地へ送られました。こちらも消耗品のため一部は廃棄処分に。

●自転車

市内の地域団体や石巻市で活躍しました。また、新潟県や福島県で発生した水害の被災地へも提供。

●水害・台風被災地（※）へ提供しました！

スコップ、高圧洗浄機、ネコ（一輪車）、土のう袋、防塵マスク、消毒用アルコール、バール、プラ製ほうき、バケツ、フォークスコップ（掻き出し用として）、合羽（床下もぐる際に着用）、ビブスなど

※＝新潟県南魚沼市、福島県金山町・只見町、和歌山県那智勝浦町

編 集 後 記

震災が起こってから１０ヶ月。その後もいろんな方々のボランティア活動は続いています。ですが「仙台市災害ボランティア応援紙　復興ニッポン　cha・cha・cha!」は最終号を迎えることになりました。今まで愛読してくださった皆さん、ありがとうございました。そして、スタッフのみなさんお疲れさまでした。今後も地域の復興を共に進めていきましょう。

発　行：仙台市ボランティアセンター（復興支援”EGAO（笑顔）せんだい”サポートステーション）
広報班　早川　敏
TEL022－262－7294　http://www.ssvc.ne.jp/　当紙が WEB で読めます！
編　集：広報ボランティアチーム　遠藤、大谷、木村、佐藤、茂木、山田、佐々木、黒田、早川
連絡先：仙台市ボランティアセンター（復興支援”EGAO（笑顔）せんだい”サポートステーション）
E メール sendai - vc@poppy.ocn.ne.jp